

**平成29年度
中等教育研究会 社会科分科会
(教科総論)**

平成29年10月21日(土)

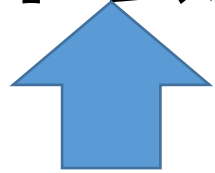
山梨大学教育学部附属中学校(田邊・梶原・薬袋・進藤)

社会科学研究主題

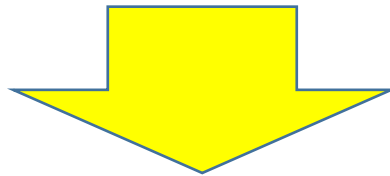
社会の形成者としての資質・能力を育む授業の創造
～社会科における「見方・考え方」を「働かせた」学びを通して～

1. 研究主題設定の理由①: 今日的な課題

社会が急速な変化し、予測困難な時代



「今ある社会  完成しきったもの」



**「現状に満足することなく、手を加え
続けていくもの」**

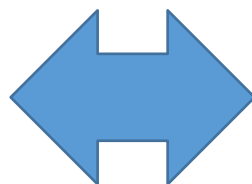


形成者

1. 研究主題設定の理由②: これまでの研究のあゆみから

過去6年間の社会科

「社会認識を高める授業の創造
～社会的な見方・考え方を育てる学習を通して～」

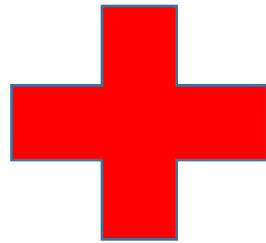


過去3年間の全体研究

「深く考える授業の創造」

2. 社会の形成者としての資質・能力とは？①

- ・ **次期学習指導要領で示された社会科の目標及び、育成すべき資質・能力（P 2）**



- ・ **本校生徒の実態**
 - ・ **自分の考えや価値観が確固としてあり、融通の利かないところがあること。**
 - ・ **他者との関わりが弱く、自分本位の考えに陥っていること。**
- ・ **教師の生徒に対する願い**

2. 社会の形成者としての資質・能力とは？②

・ **社会で見られる（た）様々な事象や課題に関して理解するとともに、課題解決に向けて諸資料から様々な情報を他者と関わりながら調べたり、まとめたりすること（知識・技能）**

・ **社会で見られる課題について、他者の考えを受け止めたり、受け入れたりしながら多角的・多面的に考察し、その解決に向けて考え、周囲に説明したり、議論したりすること。（思考力・判断力・表現力等）**

・ **よりよい社会の実現のために、他者の考えも参考にしながら、自分に何ができるのかを判断していこうとする態度を育むこと。（学びに向かう力・人間性等）**

3. 全体研究との関わり

(1) 社会科における「見方・考え方」①

現行指導要領：「社会的な見方や考え方」
→ (課題) 全体像が不明確

本校社会科

岩田一彦氏 「社会的見方・考え方」

次期学習指導要領改訂に向けた動き
(P 3 「社会的な見方・考え方」)

昨年までの授業実践の積み上げ
(視点を変える活動)

池野範男氏 「社会的な見方・考え方」

(1) 社会科における「見方・考え方」②

池野範男氏 「社会的な見方・考え方」

＜第一の見方や考え方＞

社会科で学習する領域固有の視角

(例) 「位置」・「場所」・「推移」・「比較」等

＜第二の見方や考え方＞

公民的分野における学問的成果としての概念的枠組み

(例) 「対立と合意」・「効率と公正」

「自由・権利と責任・義務」など

＜第三の見方や考え方＞

すでに生徒が持つ「見方・考え方」をより高次に作りかえる

(例) その事象を生み出しているもの・支えているものとは何なのか、よりよくするためにどうすればよいか等

第一の見方や考え方 = **各分野型（見方・考え方）**

地理的分野

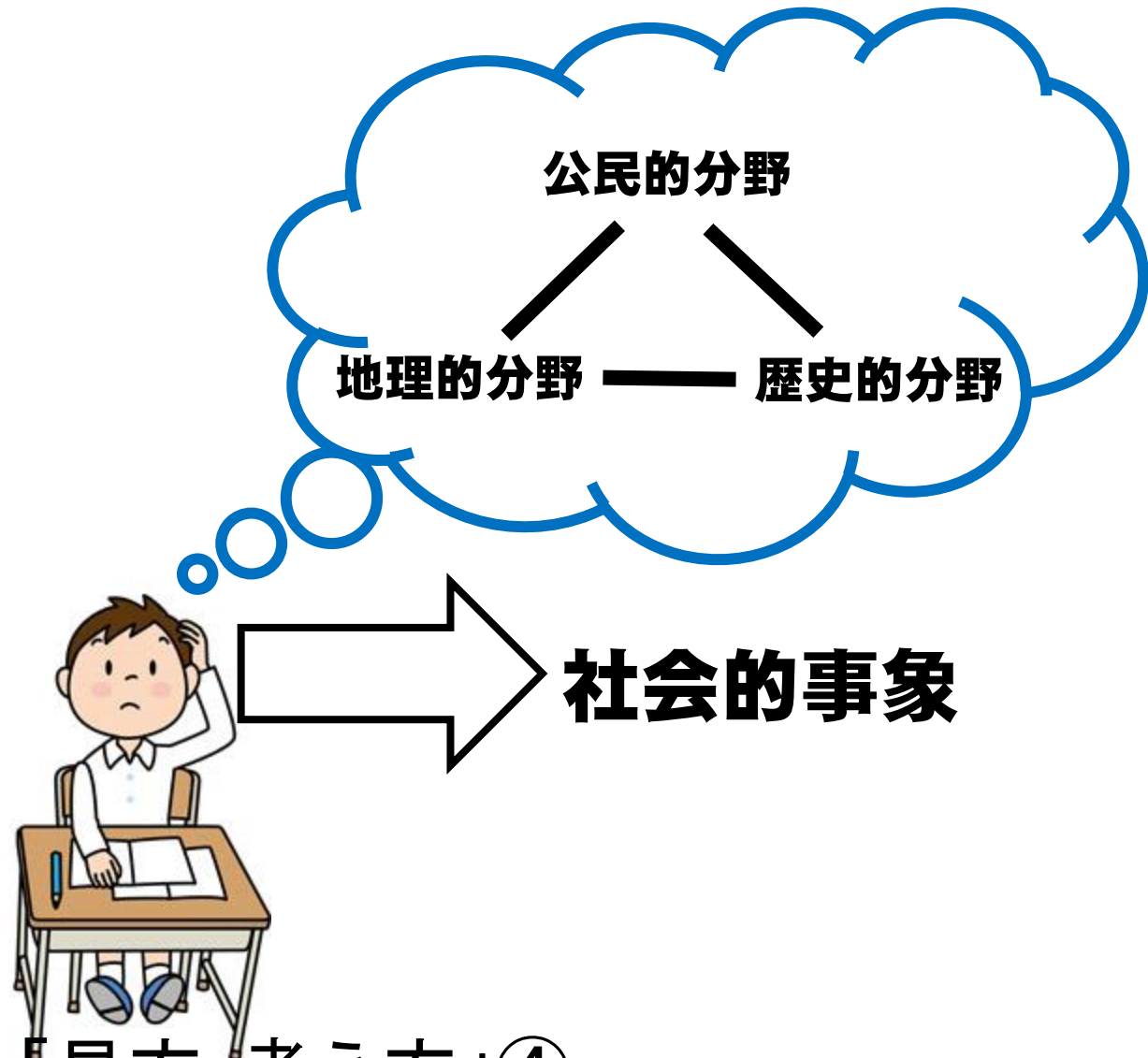
歴史的分野



社会的事象

(1) 社会科における「見方・考え方」③

第二の見方や考え方 = 分野横断型 (見方・考え方)



(1) 社会科における「見方・考え方」④

第三の見方や考え方 二 メタ認知型（見方・考え方）



(1) 社会科における「見方・考え方」⑤

以上、3つを附属中社会科の考える「見方・考え方」としたい。

(2) 働かせるとは何か

『「習得・活用・探究」という学びの過程の中で「見方・考え方」を働かせることを通じて、資質・能力が更に伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりすることにより、「見方・考え方」はさらに豊かなものになるという相互の関係にある。』

(3) 働かせるための手立て①

働かせる場面と問いの設定

- ・ 働かせる場面の設定について

「自己と対象世界との対話」

「自己と他者との対話」

「自己内対話」

(3) 働かせるための手立て②

働かせる場面と「見方・考え方」の対応

働かせる場面

「見方・考え方」

「自己と対象世界との対話」

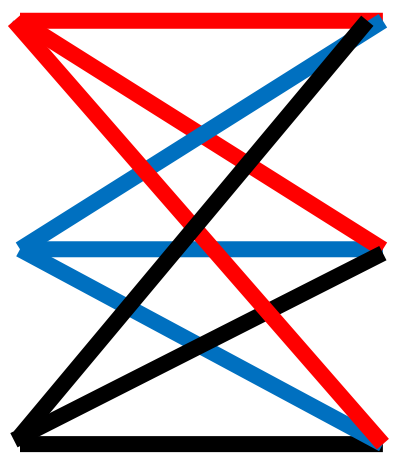
各分野型

「自己と他者との対話」

分野横断型

「自己内対話」

メタ認知型



(3) 働かせるための手立て③

問いの設定について

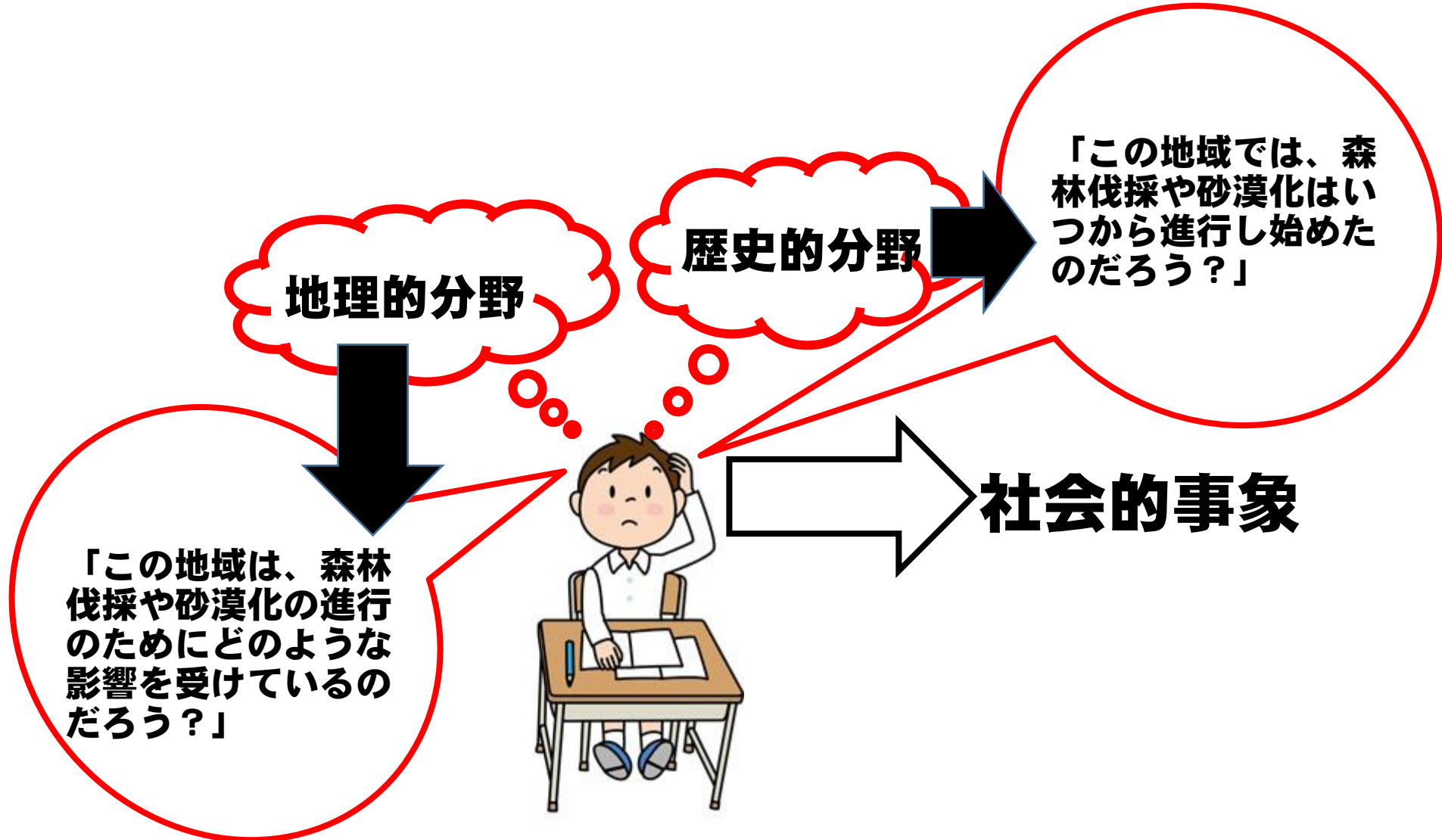
- ・ 生徒が「なぜなのか」、「どうしてなのか」、「どうしたら良いのだろうか」、「本当にそうなのか」など主体的に考えたいくなるような問いが生まれる教材の開発
- ・ 指導者が単元を見通すこと。
→ 単元の構造図の作成

(3) 働かせるための手立て④

働かせるための手立て①～③をまとめると……

指導者が、どの「**見方・考え方**」をどの「**場面**」で働かせるのかを設定し、その場面で持たせたい**問い**（生徒が主体的に考えたいような問い）とはどのようなものかを**見通し**しておく。

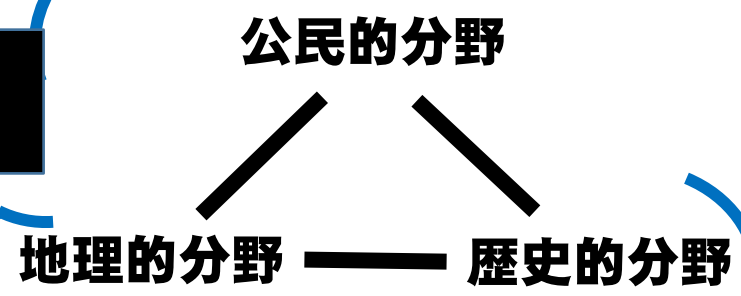
各分野型（見方・考え方）を「自己と対象世界との対話」 をする場面で働かせた際に生徒が持つ問いのイメージ



(3) 働かせるための手立て⑤

分野横断型（見方・考え方）を「自己と他者との対話」
をする場面で働かせた際に、生徒が持つ問いのイメージ

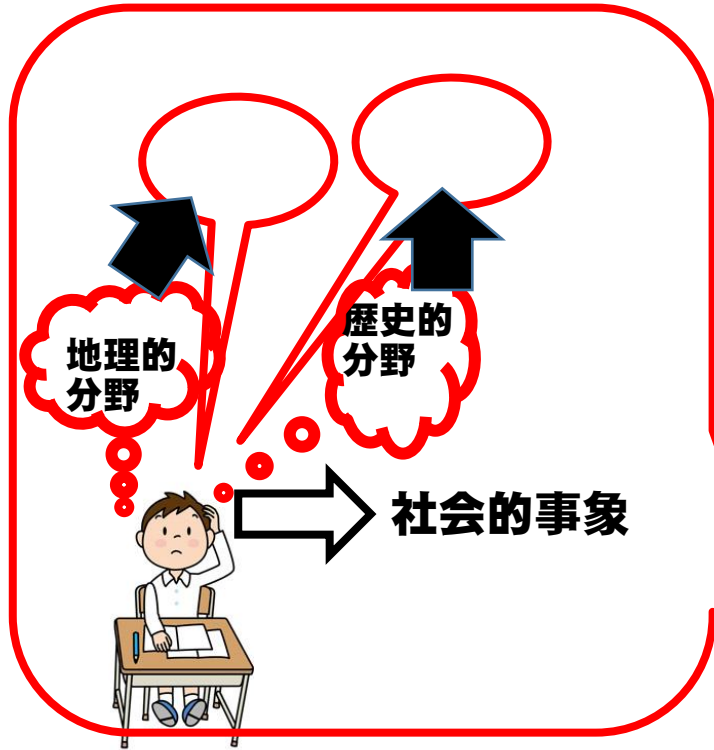
『持続可能な社会の視
点から、森林伐採やそ
れに伴う砂漠化の進行
を食い止めるために、
私たちはどのようなこ
とができるだろう？』



社会的事象

(3) 働かせるための手立て⑥

メタ認知型（見方・考え方）を「自己内対話」をする場面で働かせた際に、生徒が持つ問いのイメージ



(3) 働かせるための手立て⑦



『森林伐採は、本当に良くないことなのだろうか？』

(3)働かせるための手立て⑧

小学校社会科との連携（特に附属小）

- ・ **互いの校種の学習内容の理解**

（中学校の立場で表現すると、この単元は細かくやっているが、あの単元は中学校の学習で深めていかなければならない等）

内容の枠組みが共通する箇所については、小学校・中学校でそれぞれどのような授業ができるのかを検討する。

(4)「見方・考え方」を「働かせる」学びを通して、目指す生徒像

「本当にそうなのか」、「なぜなのか」、「どうなるべきか」等，社会の有り様や在り方について様々な視点に立って思考し，自分が持つ認知の枠組みを広げたり，新たに作りかえることができる姿。

4. 研究の目標

本校社会科がとらえる「見方・考え方」の下、生徒が社会の有り様を考察したり、社会の在り方を構想したりする授業を創造することを旨とする。さらに、このような学習活動がくり返されることで社会の形成者としての資質・能力を育む。

5. 追究の課題

社会科における「見方・考え方」を働かせた学習を、単元全体を見通して計画的に位置づけたり、小学校での学習との連携を意識したりした授業を実践することにより、社会の形成者としての資質・能力を育むことができるのであろうか。

(1) 社会科における「見方・考え方」を働かせた学びとは、具体的にどのような学習なのだろうか。

(2) 社会科における「見方・考え方」を働かせた学びに必要な手立てとして、具体的にどのようなものがあるだろうか。

(3) 生徒が社会科における「見方・考え方」を働かせた学習を通して、社会の形成者としての資質・能力を育むことができたかどうかは、どのように見取り、評価すれば良いのだろうか。

6. 研究計画

<積み上げていくこと>

一年次:「見方・考え方」を働かせた授業の実践

二年次:「見方・考え方」を働かせた姿に対する
見取り(評価)

※1月の第3回事前研究会で提案予定

三年次:一・二年次の深化、研究の総括

<継続していくこと>

附属小学校との連携

**ご静聴ありがとうございました。
たくさんのご意見をいただければと思います**